

2020年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【北九州市】

学校名【北九州市立 大蔵中学校】

1 実践テーマ	I ・ II ・ III ・ IV ・ V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	全学年 1年生38名、2年生34名、3年生24名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科等名 ()</p> <p>② 行事名 (二條実穂選手講演会)</p> <p>③ その他 ()</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	<p>○車いすを使って生活する苦労や工夫を知り、体験を通して考え、障がいを持った方たちと共生する社会について考える。</p> <p>○体験を通して、だれもが気持ちよく生きるために必要なことについて自分の考えを持ち、実践していこうとする心情を養う。</p>
5 取組内容	<p>○二條選手の生い立ちや車いすテニスプレイヤーの考えなどを聞くことにより様々なことを学んだ。</p> 

○競技用車いすを全生徒が乗車体験を行うことにより、コントロールの難しさや乗り降りの仕方などを学んだ。



○車いすテニスを体験することで車いすをコントロールしながらテニスをする楽しさを体験できた。



- 6 主な成果
- 夢をあきらめないことの大切さを知った。
 - 周りの人への感謝を忘れてはいけない。
 - 困っている人がいたら助けたい。
 - 「無理」と言わずに取り組んでいく。
 - 目標は大きく持つ。

- 7実践において工夫した点(事業の特色)
- 高低差が大きい地形で高齢者も多く、学校も坂の上に建てられている。今回の講演会で今後生活するうえで不便なところなどを生徒各自が気づいて行動することを願い、事前学習に取り組んだ。

- 8主な課題等
- 事前の細かな打ち合わせができないため、当日の講演会直前に打ち合わせをして決めていかなければならなかった。しかし、講演者(二條選手)が柔軟にこちらの意見も取り入れていただいたので助かった。(遠方から来られるのでこのやり方しかないと思われそうですが)

- 9来年度以降の実施予定
- 現在検討中です。